

## スポーツ推進審議会委員やスポーツ関係団体等の主な意見(2/2)

### ○ 競技力の強化について

- ・ 中学校から高校への進学に際し、県外流出を防ぐことが重要。
- ・ 高校生アスリートに対する、セカンドキャリアを見据えた進路指導が重要。
- ・ 添上高校と大和広陵高校はアスリートを育てる学校として位置付けた上で、そこでは安定的な指導者

### ○ スポーツの指導者について

- ・ 小学校では、運動好きを育てるために授業内容をいかに工夫するかがテーマ。
- ・ アスリートとして将来性の高い子どもに対し、スキルの高い指導者をつけることが必要。
- ・ 指導者の絶対数が不足。
- ・ スポーツ少年団の指導者が勝利至上主義に走っている傾向がある。

### ○ スポーツ等の情報の発信について

- ・ ユーザー間の情報交流により、運動・スポーツへのモチベーションの高揚を図る。
- ・ 近府県と連携した情報発信が必要。
- ・ インフォメーションサービスが必要
- ・ スポーツ情報(施設、イベント、サークル、指導者等)の検索システム構築の検討に当たって、Webを活用した「ハマスポどっとコム」(横浜市体協)を研究してみてもどうか。

### ○ スポーツイベントによるにぎわいづくりについて

- ・ 橿原公園陸上競技場でのナイトランを継続実施すべき。
- ・ 市町村対抗子ども駅伝を継続開催するとよい。
- ・ 奈良マラソンなどに障害者が参加できるような取組を検討すべき。
- ・ サイクルイベント、リレーマラソン等の内容を充実してはどうか。

### ○ スポーツツーリズムについて

- ・ スポーツツーリズム等、観光客も地域住民も参加するイベントやツアーの実施は重要。
- ・ 寺社巡り等とスポーツのコラボ企画はどうか。

### ○ トップアスリートや企業、大学等との連携について

- ・ 子どもたちにとって、トップアスリートは憧れであり、その道を目指すきっかけとなる。
- ・ トップアスリートに触れることは大きな刺激になる。
- ・ 自分たちが住んでいる身近な地域で国際大会等が開催されることにより、スポーツを始めるきっかけとなる。
- ・ トップアスリートが奈良県に戻れるしくみが必要。
- ・ トップアスリートのスポーツ教室などのイベントを開催してはどうか。
- ・ 天理大学や奈良産大が指導に積極的。

### ○ 身近な公共施設の活用について

- ・ 住み、生活するだけで健康になるまちづくりを目指してはどうか。
- ・ スポーツ広場(何も無い、芝生だけの広場)、遊歩道等を整備してはどうか。
- ・ 休日に親子で手軽の利用できる近くの遊び場の充実を図るのもよい。

### ○ 学校体育施設等の活用について

- ・ (再掲)南部地域の廃校を利用してはどうか。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの拠点として活用してはどうか。
- ・ 放課後に学校施設の開放をしてはどうか。

### ○ 既存スポーツ施設の計画改修について

- ・ 既存施設(学校施設や民間スポーツ施設)の有効活用は重要。
- ・ 南部地域の廃校を利用してはどうか。
- ・ 東海自然歩道の整備をしてはどうか。

### ○ 新たなスポーツ施設の整備について

- ・ 少なくとも国際大会が開催可能な、「みるスポーツ」を意識した、シンボリックな拠点施設の整備は重要。
- ・ 新たなスポーツ施設の整備については、引き続き検討が必要。
- ・ 国際大会が開催可能な、「観るスポーツ」を意識した拠点施設の整備は重要。
- ・ 完成後の管理運営を見据えた施設整備(PFIの活用は有効)が必要。